

(別表第1)

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

### II. 家族との支え合い

### III. 地域との支え合い

### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 2 月 22 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3871000190
事業所名 (ユニット名)	ユニットぐんちゅう A棟
記入者(管理者) 氏名	森田みずほ
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 26 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 「悔いの残らないお世話をさせて頂き ます」</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①年に二回の避難訓練に家族の参加が無く情報の旧友ができていない ・感染対策により、避難訓練は自主にて行い、家族の参加はないが、報告書を作成し送付した ②地域のケア拠点としての機能ができていない ・感染予防のため、秋祭りやバザーなどを自主にて行ったため、地域の人が集う場所の提供はできていないが ・羊草き・お弁当・手作りおやつ・ぐんちゅう便り等配布し、少しでも地域とつながれるよう努めた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 平屋建ての事業所の窓からは、庭木や季節の花、野菜の栽培の風景がリビングから見え、季節の飾りもあり、利用者や来訪者は季節を感じることができる。利用者一人ひとりの希望や性格を尊重しながら、好きなことや得意なことを、楽しみのある役割として担ってもらいながら、日々職員は、笑顔のある生き活きた生活を送ることができるような支援に取り組んでいる。また、職員のアイデアから、身体機能に合わせた工夫が随所に見られ、職員の利用者に対する気づきや思いやりが感じられる。コロナ禍で外出や面会の制限が設けられている中でも、運営推進会議の参加メンバーとなっている地域住民の自宅に資料を届ける際に、行事食や手作りのおやつを持参して意見交換をするなど、交流を継続する工夫が行われているほか、地域の伊予農業高校の生徒と、事業所の畑での野菜栽培を通して交流を継続することもできている。さらに、利用者が食事を楽しみになるように、リクエストメニューの行事食を取り入れたり、ビュッフェ形式や折り詰め風にして、食事を提供したりする工夫も行われ、利用者には喜ばれている。加えて、職員がやりがいや楽しみを持ち続けながら利用者に関わることができるような体制が整っており、長年勤務している職員も多い。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の生活の中でのコミュニケーションを大切にし本人の思いや希望について聞くなど希望・意向の把握に努めている。	◎	/	◎	入居時に、管理者等は利用者や家族から、暮らし方の希望や意向を聞いて確認するほか、生活していく中で知り得た情報も含めて、アセスメントシート等に記録し、職員間で情報共有を行い、把握するようにしている。また、思いや意向を言葉に表しにくい利用者には、表情や様子から、思いをくみ取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	自分では、どうしていいかわからない思いを伝えられない利用者には、その人の表情や行動・様子などを見て「本人はどう思っているのか」と考えている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	日々の生活の中で、ご家族や知人の来所時やメール、お電話や手紙で「本人の思い」について話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントや毎日の生活の中で得る情報を日々の記録や申し送りして伝える事を大切にしている。本人の状態の変化への対応も日々話し合っている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員同士でお互いに思い込めや決めつけにならないよう、また偏らない様状況を共有し対処している	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時にこれまでの暮らし、こだわり等をご家族から伺い、一人ひとりの暮らしや大切にしていることこの把握に努めている。また、日常生活の中で本人が気にしたり大切にしていることなど気になることがあれば、本人をよく知る人に聞きスタッフ間で共有している	/	/	◎	可能な場合には入居前に、管理者等が自宅を訪問して利用者や家族から、生活歴や生活環境、これまでの暮らしやこだわりなどの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所の関係者から情報収集を行い、サービスに至るまでの経過や現状を把握することもあつた。また、把握した情報はアセスメントシートに記載するほか、年度末に、情報の見直しや更新をするともに、新しい情報を追記をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で本人が「できる事」「出来そうな事」を観察し現状の把握に努めている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	その日により、しんどい時には、無理をしない等の利用者の状態に応じ、対処していく。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の暮らしを観察し コミュニケーションを取りながら、本人が必要としていること・求めていることは何か理解しようと努め検討している	/	/	○	利用者の性格や好きなこと、得意なことなどを把握して、私の暮らし方シートにまとめた情報をもとに、担当職員を中心に話し合い、利用者が何を求めて、何を必要としているかを利用者の視点で検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアカンファレンスを定期的に行い、本人に合った支援になるよう課題の把握に努めている	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	毎日の暮らしや会話の中の言葉を大切にし、その思いや意向を客観的にどのような支援が必要かを考える	/	/	/	事前に利用者や家族の意見や要望を聞くほか、主治医の指示やアドバイスをもらい、職員間で意見を出し合いながら話し合い、各ユニットの計画作成担当者が介護計画を作成している。また、利用者や家族のほか、職員等の意見が反映された計画となるよう努めている。さらに、介護計画の様式は、家族にとって分かりやすいように工夫されているが、近々、同法人内の他のグループホームと様式の検討を予定している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人とは毎日の暮らしや会話の中で、ご家族とは面会時などコミュニケーションに動機意見やアイデアを出しやす環境を作り反映するように努めている	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	思いや意向を理解しようと努め意思の疎通が難しい方に対しても、尊厳を保持し穏やかに安全に過ごせるような内容に努めている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	古くからの知人・馴染みの人や家族の協力を盛り込んだ内容がある	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者担当者のモニタリングやカンファレンスにてスタッフ間で介護計画の内容を把握・理解・協議しケアプランの作成に反させている	/	/	/	○ 利用者一人ひとりの介護計画は、職員がすぐ目にするのできる場所に置き、全ての職員が利用者の目標やサービス内容を把握できるようにしている。また、日々のケア記録にも、計画に沿ったサービス内容を実施した際に記録を残し、職員間で利用者の現状を確認できるようにしている。今後管理者は、継続して全ての職員が記録を記入しやすく、利用者の情報や様子を確認しやすい記録の様式の検討を予定している。さらに、3か月に1回モニタリングを実施し、利用者毎の担当職員が中心となり、介護計画に沿ったケアが実践できたかを確認している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	本人の言葉や行動・エピソードなど暮らしの様子や支援した具体的内容を記録し、定期的にモニタリング・カンファレンスを行い介護計画に沿ってケアが出来ているかカンファレンスを行い日々の支援に繋げている	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	最短で1ヶ月、または三ヶ月・六ヶ月等、状況に応じて見直しを行なっている	/	/	/	◎ 介護計画は、6か月に1回を基本として、見直しをしている。入居後すぐや短期目標などの期間に応じて、1か月や3か月で計画の見直しをすることもある。また、毎月実施する安全委員会や申し送り等で、利用者の現状を確認するとともに、利用者毎の担当職員を中心に、3か月に1回モニタリングを実施し、評価を残している。さらに、利用者に変化や新たな要望が見られない場合にも、日々職員は利用者の現状の把握を行い、心身状態に変化や新たな要望があった場合には、随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当者は状況に応じて申し送りや話し合いを行い現状確認を行なっている	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院や心身の状態の変化等により必要に応じて現状に即した新たな計画を作成している	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	朝・夕の申し送りやアセスメントシート又は安全委員会の開催など必要に応じてその都度話し合う機会を設けている	/	/	/	○ ユニット毎に、日々朝夕の申し送りを実施するほか、緊急時の話し合いが必要な場合には、その日の勤務職員で検討して対応を行い、結果を全ての職員に周知するようにしている。また、両ユニットの合同で、月1回安全委員会が開催され、利用者の様子や事業所の出来事などの情報共有が行われている。さらに、参加できない職員には、会議の前に意見を聞くほか、会議終了後には、記録を確認してもらうことができています。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日々、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを話せるよう雰囲気づくりに努め、会議でも活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	勤務表や日程の調整をしている。少しでも多くの職員が参加できるように努めている。話し合った内容は報告書を経て、又は申し送り・申し送りノート活用し周知に努めている	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り・申し送りノート・個別記録を活用し情報の共有に努めている。朝夕の申し送りで全体について、一日の流動的に起こる出来事についてはその都度共有している。重要事項は特に繰り返し朝夕の申し送りで共有するようにしている	◎	/	○ 日々、朝夕の申し送りを実施して、口頭で伝達している。また、職員は勤務に入る前に必ず申し送りノートを確認するとともに、確認後にはサインを残し、確実な情報の把握や共有に努めている。さらに、情報の伝達漏れがないように、特に重要事項は、重ねて口頭などで伝達をするようにしている。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	生活の中で一人ひとりの事をあえての事は、困難ではあるが、少しでも出来るよう努力している。	/	/	/	○ 起床時間や体操の実施の有無、衣服選び、昼寝、自室で過ごすなど、様々な場面で職員は利用者へ声をかけて、自分のペースで希望に沿いながら、自己決定してもらえよう支援している。中には、自分のペースで起床し、ゆっくり朝食を食べる利用者もいる。また、体操やレクリエーションなどをしたくない場合には、自室でゆっくりしてもらうなどの対応をしている。さらに、日々利用者全員が、楽しみのある生き生きとした生活が送れるように、季節の花や行事の話題を出したり、好きな話題を提供したりするなど、利用者一人ひとりの好むことや喜ぶことを職員は把握して、声かけや環境づくりをしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	日々の暮らしの中、利用者の言動、表情などを観察し本人の希望を大切に支援している。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人のペースとタイミングに合わせて習慣を大切に支援している。夜に入浴したい方にも状況を説明しながら本人が納得できるような声掛け誘導に努める等、なるべく決まりや都合を優先していると感じて頂かない様に気を付けている	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	優しい言葉がけを行い、少しずつ関わりを大切に。本人の表情に気をつけ、笑顔で雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の関わりを大切にし、丁寧な言葉かけ、表情を観察し本人の気持ちに寄り添うことに努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	日々の言動、状況に応じてプライバシーを大切に、孤立しないように工夫し、安心して生活が出来るよう努めている。	○	○	◎	○ 事業所として、職員が人権や尊厳などを考えて振り返る機会を持ち、日頃から利用者に対する意識した言動に努めていることもあり、プライバシーや羞恥心に細やかに配慮した様子を窺うことができた。また、トイレに番号や色を表示して、職員や利用者同士が共通して認識できるようにしており、職員同士が利用者のトイレ誘導に関わる情報を共有する時に、「○番に○○さんが入っています」などと伝える工夫を行い、あからさまな声かけにならないようにしている。さらに、居室をプライベートな空間であることを認識し、入室の際に、職員は声かけやノックをしてから入室することができるように、管理者等は職員への周知徹底に努め、実践することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	個々に違いがあるが、排泄時、入浴時にも、声掛けし不安がないよう安心安全な介助に努めている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	自室は、憩いの場、安心できる場所であるため出入りにも十分配慮し心掛けている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員は、会社との面談等でプライバシーの保護の個人情報を理解し、守っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者の言動に傾聴し、感謝の気持ちを大切にしてお互いに関係づくりに努めている。	/	/	/	職員は、利用者の性格や関係性を理解して、席の配置に考慮するほか、言い合いなどが見られた場合には、早期に間に入って対応するなど、大きなトラブルが起こらないような配慮に努めている。中には、良好な関係性ができている利用者同士もおり、お互いに気にかけて励ましの声をしたり、支え合ったりする場面も見られる。また、午前中の体操は、基本的に両ユニットの利用者が集まって一緒に行っており、交流することでより良い相乗効果が生じている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共同生活の中でお互いが支え合う事の意識を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し早めに対応し、席の配慮を替えたり、利用者が孤立にならないよう支援に努める	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルに対してはスタッフ間で早めに情報を共有し、利用者が不安にならないよう対応に努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前の生活状況(アセスメント)にも注目し、本人と家族などスタッフ間で情報共有している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	知人の方の訪問、ミニ情報持参で本人との関わりを大切にしている馴染みの美容室を利用し、楽しい時間に努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナ感染予防の為、現在実施できていないが、コロナ前は、季節に応じた行事、花見や、菜の花、コスモス畑へのドライブ等、実施できている。	○	○	○	コロナ禍において、事業所には外出制限が設けられ、外出できる機会が減少している。日常的に、庭や畑に出て外の空気を感ぜてもらったり、天気の良い日には、近隣にある神社まで散歩したりするなど、外出できる機会を設けて、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。コロナ禍以前は、月1回ドライブをして、季節の花を見に行くなどの外出支援することもできていた。毎年恒例にしていたいちご狩りに出かけており、今年は感染状況を鑑みたく、例年のように貸し切りにして実施するなど、感染対策を十分に講じた上で開催できるように、職員間で検討をしている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	コロナ感染予防の為、現在、実施できていないが、以前は、地域の方と、いちご狩り、羊焼き等、外出できていた。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	定期的に内部研修を行い、認知症について理解を深め、職員同士、カンファレンス等にて話し合い、利用者の不安を取り除くケアを行なっている。	/	/	/	担当職員を中心に、利用者一人ひとりのできることやできないことを把握し、必要以上に手や口を出しすぎないような支援に努めている。また、利用者の身体機能や安全性を十分に考慮して検討した上で、ベッドから立ち上がり、居室内を移動する際に、自力で安全に移動できるように家具の配置場所を工夫するなど、利用者の残存能力を活かせるような環境づくりに取り組んでいる。さらに、利用者のできる洗濯物たたみや食器拭きなどの生活リハビリをしたり、体操や散歩を取り入れたりするなど、利用者の心身機能の維持にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	食事前に、利用者全員で口腔体操を行ったり、嚥下機能が低下している利用者に対しては、個別にてアイスマッサージを行うなど、取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	野菜の皮むきや、洗濯物たたみ等の手伝いの他、多少、時間がかかっても、更衣や自力摂取できるよう見守っている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	編み物や、縫い物、写経や花の水やり等、利用者それぞれの、得意なことや楽しみを把握できている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、畑の野菜の世話、掃除、食事のおぼん拭きなど、利用者一人ひとりの得意なことのほか、希望に合わせて役割を担ってもらい、生活の中に張り合いや出番を作っている。中には、食事の下準備の際に、包丁を持って野菜を切ることができていた利用者が、高齢化に伴い、包丁を持つことが難しくなってきたこともあり、皮むきピーラーに変えるなどの工夫を行い、レベルが変わっても役割として、少しでもできることを継続してもらえるよう取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	中庭での野菜の収穫や、ホーム内でのレクリエーションや壁画作りなど、利用者の特性に合わせて楽しんでもらえるよう、取り組んでいる。	○	△	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者さんの好みの服を着用されるよう声掛けをしている				起床時に、服を選んで着替えることのできる利用者がいるほか、職員は声かけをして、着たい服を選んでもらうなどの支援をしている。また、整容の乱れや汚れなどが見られた場合には、職員は利用者のプライドや気持ちを大切に声かけや対応を行っている。さらに、利用者の清潔感に配慮しながら、定期的に訪問理容を利用して、好みの髪型に散髪してもらうほか、職員の手編みの帽子を愛用している利用者もいる。加えて、夏には利用者一人ひとりが浴衣を着て化粧をするなど、おしゃれを楽しめる環境づくりに努め、利用者には喜ばれている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	スカーフや帽子、ヘアピンなどで自分らしさをアピールしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	どちらがいきいか訪ねる。そうではない方にはこちらからアドバイスしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合った服装や行事など活動しやすい服装に支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくてさけなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さり気ない声掛けや誘導を行いプライドを大切にしている	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	好みの髪形などを理容師さんに伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	洋服に着替える時や・面所での整髪時など、声掛けを行い本人らしさを大切にしている			○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者は、食事をとても楽しみにしており、今日のメニューを聞いてきたり、またこちらから伝えたりすると喜ばれる。				
17	食事を楽しむことのできる支援	b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	庭の野菜を収穫し「何にしたら美味しいか」など一緒に考えたり、じゃがいもの皮むきや、もやしの根切り・栗の皮むきなど喜んで丁寧にやって下さる。			○	事業所では、食材の宅配サービスを利用しており、業者から野菜や肉類などが届けられ、業者作成のレシピ付きの献立表に沿って、利用者に野菜の皮むきなどの調理の下ごしらえやお盆拭き、後片づけなどを手伝ってもらいながら、片方のユニットでまとめて、職員が調理をしている。月1回配食サービスを休止し、利用者のリクエストメニューを取り入れて、芋炊きやお好み焼きなどを提供し、利用者には喜ばれている。週に数回、おやつを手作りしており、利用者も手伝う過程から楽しみにしている。事業所の畑で収穫した季節毎の旬の野菜が食卓に上ることもあり、献立に一品加えるなどのアレンジをしている。食器類は、利用者の使い慣れた物や使いやすい物を使用しており、なるべく陶器の食器に盛り付けるようにしている。コロナ禍もあり、食事の際には、職員は利用者と一緒に食事を摂っていないが、お茶タイムの時に、同じテーブルを囲んで、職員とゆっくり談笑する時間を設けている。また、重度の利用者も含めて、利用者全員が食事を楽しめるように、栄養士の資格を持つ職員と相談しながら、ビュッフェ形式にしたり、折り詰め風にししたりして食事を提供するなどの工夫も行われている。
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	おやつ作りの時など手伝ってもらって「私が作ったんよ。」と嬉しそうに言っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握していて、除去したり、好きなものは少し多くおげたりしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	春の木の芽時などは、つくしやふき、たけのこ等話しながら下ごしらえを手伝ってもらい取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者にあわせて調理方法をとっているが視覚も大事と思っているので盛りつけ等工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の使い慣れた物を持参して頂き使用したり、本人の使いやすいものを使用している。食器はなるべく陶器を使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	普段、一緒に食卓を囲むことはないが、側で様子を見守りさり気なくサポートを行っている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	施設では、重度の方はいないが、今日のメニュー等をお伝えしたり、匂いや音など感じる事を言葉で伝え食事が楽しみになるような雰囲気作りに努めている	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人一人違うので軟飯やおかゆ、キザミ食を提供している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	傾眠が強い利用者様がいる場合は、時間をずらして食事を提供している。また、低栄養にならない様に栄養ゼリーなどを用いるなど工夫している				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	季節にあったお楽しみ会を実施しており、栄養士の指導の下、お花見や百寿のお祝いの時、お重に詰めて提供したり、ビュッフェで一人ひとりが料理を取ったりする形式を行っている。			◎	
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	少しでも汚れたり、汚れが目立つ所、調理器具をハイターにつけたりして、衛生に努めている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後の歯磨きの徹底入れ歯も外してきれいに洗い口の中をよくゆすいで頂くことをしている。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りやサポートしている、自分で口腔ケアができる利用者を含めて、口腔ケア時やタイミングを見計らいながら、全ての利用者の口腔内の観察を行い、状態を把握することができている。また、歯科医の訪問もあり、職員はアドバイスを受けて、口腔ケアの重要性を理解するとともに、利用者一人ひとりの口腔内の状態に合わせて、歯間ブラシやスポンジなどの用具も使い分け、適切な口腔ケアの実施に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯に名前を銘記し、各人の器保管している。舌ブラシも活用している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	「口腔ケアのポイント」を、洗面所に貼りチェックしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後の口腔ケアを実践し、義歯を外して洗浄するのを確認できていない人には声掛け介助している。夜間、洗浄する	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	口腔ケアの嫌いなにも声掛けをし、日常的に習慣づけるようになっている。口腔ケアの大切さを知ってもらえるよう声掛けしている。定期的な訪問歯科にて口腔内のチェックを行っている	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来る限りトイレで排泄できるよう本人に声掛けし介助している。失敗してもさり気なく片づけをしている使用済パット等は、新聞紙に包み、他者にわからないよう工夫をしている。	/	/	/	立位の困難や身体状態により、事業所にはおむつを使用している利用者もいるが、基本的に、利用者一人ひとりに合わせて、トイレで排泄できるよう支援している。中には、入居時に紙パンツとパッドを使用していた利用者が、排泄のタイミングに合わせて、職員がこまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツとパッドの大きさを小さくできた事例もあるなど、排泄方法などを見直ししながら、利用者の自信に繋がるような支援にも取り組んでいる。また、トイレの出入り口は3枚扉になっており、左右のどちらからでも開くような工夫が行われ、利用者が出入りをしやすくなっている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排便回数を確認し、食事量の変化・摂取水分量を把握。排便の無い人は、野菜摂取・水分の摂取の声掛け	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	トイレの長時間行っていないひとにさりげなく声掛けをしている。「トイレ空いてるよ」「早めに行っておきますか?」	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	体調悪く、オムツ利用している方も、その日の体調によって紙パンツ使用でトイレ誘導するよう努めている。使用の必要性や適切性について常に見直しその人に合った支援を心がけている	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	一日の水分摂取量、食事量の把握。排泄リズムを把握して、水分摂取に努め、薬が必要な方には、医師から処方してもらっている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	本人の排泄リズムにあったトイレ誘導をすることによって、失禁をなくす努力をしている。便失禁をなくすよう、誘導を行なっている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の気に入った尿吸収パッドを利用してもらっている。家族に了解を得て、お試しを利用し、使用してもらっている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中、尿失禁の少ない利用者さんは、布パンツ・パッドを利用してもらい、夜間紙パンツに交換する方もいる。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘予防の為、牛乳・ココア・ミルクの提供など個々に合った飲食物を工夫したり、腹部マッサージや排便体制の助言・健康体操や歩行を促すなど色々な取り組みを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	個々好み温度を把握し、追い焚き、運目の声掛け等工夫している。湯船に入れる人には、湯につかってもらい、喜んでもらっている。曜日や時間帯は基本的には決まっているが本人の要望に合わせて支援している	◎	/	○	事業所として、入浴できる曜日や時間帯が決まられ、週2回入浴できるようになっているが、利用者の状況に応じて、湯の温度や入浴日の変更など、臨機応変に対応している。また、なるべく湯船で浸かり、温まってもらえるように、職員は利用者のペースで入浴してもらうように声かけをしている。中には、希望して、毎日足浴をしている利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだり気分が入浴できるよう支援している。	◎	利用者、1人ひとりに合わせた会話の提供をし、ゆったり、くつろいで入浴できるよう支援できている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人の様子を見ながら、声掛けし出来るところは本人に任せ、見守りしながら安心して入浴できるよう支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	明るく声掛けし、話をしっかり聞き、本人が納得してから入浴できるようにしている。どうしても、気分が乗らない時は、入浴の順番や、日をずらす等、工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	その日の申し送りや、バイタル測定にて、健康状態を確認してから、入浴の可否を決定している。入浴後の状態も確認できている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	利用者、1人ひとりの入眠時間、トイレに起きる時間、起床時間等、把握できている。	/	/	/	事業所には、眠剤などを服用している利用者もいるが、日中の過ごし方のほか、利用者の生活リズムを把握して、環境を整えたりするなどの工夫を行い、利用者が夜間に安眠できるよう支援している。また、必要がある利用者には、1日の睡眠時間をケア記録にマークで記載して睡眠状態の確認を行い、主治医や薬剤師に相談して連携を図りながら、漢方薬の服薬に繋げるなど、安易に睡眠導入剤の使用に頼らないような支援にも努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、照明の工夫をする等、1日の生活リズムを整える取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	介護職員、看護師で日々、支援内容について話し合い、医師とも相談しながら、利用者の体調を考慮し、日々の支援を行っている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	長時間、話が盛り上がっている利用者や、座りっぱなしの利用者には、声掛けし、自室にて休息、昼寝をしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人からの訴えがあればホームの電話又本人の携帯電話を使用し電話している。季節の節目(暑中見舞いや年賀状)に手紙を出している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	コミュニケーションを図りながら家族さんへ伝えたいこと、思いを引き出し書きとめている。代筆他名前だけ本人に書いて頂く、はがきの装飾など出来ることをして頂いている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人からの訴えや不安時にこちらから提案する等本人が電話できる環境をつくっている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人が読んでいる姿を写真に撮り家族さんへ送っている。可能な方は、返事の手紙を送る。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	お願せずとも電話やお手紙をくれる家族さんが多い。また、本人が寂しさや不安で元気が無い時には、協力をお願いする電話やメールをする事もある	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	使う事の意味や大切さは十分に理解した上で、本人・家族と相談しながら管理している	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	本人からの訴えがあれば必要であれば家族へ許可を頂き代理で購入している。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金の管理は出来ないが、不安を強く感じられる利用者には、おもちゃのお札を渡し安心に繋げている。基本的には立替になっているが小銭入れに少量の金額を所持して頂くなど一人一人の状態に合わせて支援している	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要な物がある場合、家族の相談し、同意を得てから購入している。代金は立替金として、帳簿に記入している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	GH内の金庫にて利用者の財布を預かったり、家族に報告し、返金したりしている。個人の立替金については帳簿にいつ、何を購入したかを明確に記入している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の対応が難しい場合、スタッフが通院などに付き添う。今はコロナ等の感染予防の関係で外出は難しいが、コロナが流行する前は、利用者と一緒に買い物に行ったりしていた。	◎	/	◎	コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられ、対応できにくいこともあるが、利用者や家族から出された要望には、柔軟に対応している。衣替えの際に、利用者の家に職員と一緒に行き、利用者の希望する衣類などを事業所に持って帰ったり、コロナ禍において、実際に法事に参加することが難しいため、事業所からZOOM機能を活用して、リモートで法事に参加したりするなど、利用者や家族の希望や思いに添えるように取り組んでいる。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	日勤スタッフがいる時間帯は、玄関の鍵を開けている。中庭に季節の野菜など植えている。畑には、伊予農の生徒さんと一緒に野菜を育てている。	◎	○	◎	道路沿いに看板が設置され、事業所前の道路からも場所が分かりやすいように駐車場も敷地内にあり、車でも来訪しやすくなっている。事業所の建物は平屋で、両ユニットのリビングから庭や駐車場の様子が見え、職員は来訪者を分かりやすくなっている。また、庭木や季節の花、畑の野菜は手入れが行き届き、明るく開放的な雰囲気を感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に季節の飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	アットホームな環境作りをスタッフ全員で心掛けており、壁面を利用者と一緒作り、季節に合わせて替えている。庭に咲いている花を花瓶に生けて、落ち着けるような雰囲気になるように配慮している。	○	◎	◎	平屋の事業所は玄関ホールを通して、気軽に利用者はユニット間を行き来することができるようにしている。明るいリビングの窓から、庭木や季節の花、野菜栽培の様子を眺めることができるほか、職員や他の事業所から菜の花やコスモスなどの季節の花を持ってきて生けることもあり、利用者や来訪者は季節を感じることができる。調査調査日には、リビングに活ける梅の花を職員と利用者が一緒に眺めて、会話する場面を見ることができた。調査の翌月のひな祭りに合わせて、ひな人形が飾られており、春らしく華やかな雰囲気も感じられた。また、事業所ではウサギが飼育され、利用者は触れ合いを楽しみにしている。玄関ホールにウサギの部屋があるが清掃が行き届き、いやな臭いなども感じられなかった。さらに、開設当初からリビングの一角に掘りこたつを設置した畳スペースを設けているが、近年利用者が使用しなくなったこともあり、新たに利用者にとって有効的な使用方法ができるように改修を検討している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	射光カーテンにて日差しを調節し、排泄後は窓を開けたり消臭剤を使用している。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	中庭や玄関先に誘導したり、居室の窓を開け外の景色を見てもらう。季節の花を活けたり、歌や壁の飾り、季節を感じてもらったり、話題提供している。				◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士のテーブルの配置、移動やレクリエーション時にも話ができるよう配慮している。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	興味がある物、好み、こだわりのあるものを提供し必要時には家族に問い合わせるなどを協力してもらっている。	○		◎	居室には、ベッドやエアコン、チェスト、縦長収納が備え付けられている。利用者は、テレビや机、いすなどの馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができるほか、事業所で用意した壁掛けコルクボードに、家族の写真や職員からの誕生日カード、自作の作品を飾るなど、利用者が安心して居心地良く過ごせるような空間づくりが行われている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者のできることやわかることを見つけ、見守りや一部介助にて少しでも自立の場面を作っている。			◎	各居室やトイレなど、利用者が分かりやすいように表示を付けている。また、色や番号で表しているトイレもあり、利用者にとって認識しやすく、プライバシーにも配慮できるような工夫も行われている。また、トイレの電気はセンサースイッチとなっているため、利用者に対して自動で電気が消える説明をトイレのドアに貼り、職員も声をかけて、混乱しないような対応にも努めている。加えて、シルバーカーを使用している利用者もおり、居室内に置く位置を確認としてベッドサイドに赤いテープの目印を貼り付け、利用者が安全にベッドに座れるようにしている。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	得意なことを発揮できるように工夫している活け花の道具(花瓶・ハサミ等)の用意 縫い物や雑巾縫い、新聞や週刊誌提供、好きなTV番組の時間を伝え観覧場所を提供する等					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	代表者及びすべての職員は、玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており、居室や各棟の出入り口の鍵はかけていない。玄関の鍵を掛けない事について、不審者などの出入りも想定する必要があり、課題を感じている。	x	x	◎	職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関の鍵は施錠しておらず、両ユニットの入り口も常に開放している。夜間は防犯のため、18時から8時まで玄関の施錠をしている。また、利用者は職員と一緒に気軽に庭に出て外の空気を感じられ、開放的で自由な雰囲気の中で過ごすことができている。さらに、日中に玄関を施錠しない方針は変わらないが、福祉施設や保育施設などの全般において、外部から不審者の侵入などの事件なども相次いでいることから、管理者は、いざという時に利用者や職員を守るような対策を立案している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全を優先するために施錠を望む家族は少ないが、利用者の居室やトイレなどには、鍵を掛けず利用者の安全を守るよう工夫している。					
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者に合わせてどのように介助や対応をしていくかを把握しつつ行っている。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者の体調の変化などがあれば日々の記録に残している。利用者の表情などを見つ様子を見ている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあればバイタル測定を行い、看護職に報告し、かかりつけ医などに相談し、入院かどうかを決めている。					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居の際に訪問診療を勧めているため、主治医変更する場合もあるが、2カ所の訪問診療先を選べるようにしている。	◎				
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	2カ所の訪問診療先の説明を行い、納得した上で訪問診療を決定している。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	家族が通院できない時は、医療連携看護師が付き添い、結果を家族に報告している。臨時で往診した時は受診前後に家族に報告出来ている。					



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	食事形態や介助の方法を詳しく情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院後も本人の状況の確認を行い、どれくらいになったら退院できるか相談している。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護士は、日々の中で少しでも疑問に思ったり、変化があった時は、医療連携看護師に相談できている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携看護師が待機携帯を持っており、24時間連絡がつくようになっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	1日1〜3回利用者に合わせて、バイタルサイン測定を行い、異常の早期発見が出来るようにしている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	介護スタッフが薬の副作用まで理解出来ていないが、異常時や何か変化があった時は、看護師に相談している。看護師が、家族や医師に相談・報告している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	写真つきの内服確認表を作成し、1回分ずつ個人に分けて管理し、飲み忘れが無いようにしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	利用者の症状が副作用化どうかは分かり難いが、何かあった時は薬による影響ではないかの話し合いをしている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時・重度化した場合に、看取りについての確認を家族を中心に行っている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における(看取り)指針」があり、入居時に、利用者や家族に対応できることなどを説明している。開設当初から、看取り支援に実施しており、入居時に説明するほか、状態の変化に応じて、看取り支援の必要が出てきた場合に再度説明を行い、家族等と話し合いをしている。また、看取り支援が必要となった場合には、利用者や家族のほか、主治医や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有して、チーム体制で支援に取り組んでいる。さらに、看取り支援後には、職員からアンケートを取る機会を設けて、今回の看取り支援の思いを書き出すことで振り返りを行うなど、職員の気持ちにも寄り添えるような支援に努め、次の支援にも繋げている。加えて、面会制限が設けられているが、看取り支援時には、家族との面会を可能としている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化した場合には、家族の意向を踏まえて、訪問診療先の医師や看護師と相談し、終末期カンファレンスを開催し方針を決定している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	当施設では吸引ができるスタッフが3名の為、常時吸引が必要な利用者は看取りが出来ないため、入院先と退院できるかどうかの確認を行なっている。看取りの後、スタッフの思いを聞き取っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	吸引が必要な場合に、頻回な吸引は出来ない事や、夜間は1人で対応していることを説明し理解してもらっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	状態が変化した場合、スタッフ間でカンファレンスを行い、更に訪問診療先とも話し合いを持っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	コロナで面会が出来ないが、急変・看取り時は居室での面会出来るようにしている。又、少しでも状態変化時は家族に電話で報告し、家族の思いを聴くようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染委員や感染委員会をもうけており、社会状況を見ながら対応をとり、早期発見、対応に努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	発生時の連絡方法、対処の仕方について話し合い出来ている。5月20日のデモンストレーションを行った。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	毎日のコロナ感染者の把握・注意をうながし感染予防に努めている。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤前の手洗い、うがいを徹底出来ている。利用者一人一人ですてき手袋を変えている。来客者についても検温・来所記録をとっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族とのライン交換、必要時の状態等、密に連絡出している。家庭状況を把握して一緒に本人について考えていく事を大切にしている	/	/	/	コロナ禍以前は、家族に呼びかけて、事業所の行事に参加協力してもらう機会を設けることができていたが、現在は感染予防のために中止をしている。事業所には面会制限が設けられ、家族が来訪する機会は減っているものの、オンラインの面会に対応するほか、感染状況を見計らいながら、窓越しなどの面会にも対応をしている。また、月1回発行するぐんちゅう便りは、担当職員が利用者一人ひとりの写真を掲載した個別のものを作成して家族に送付しており、日々の利用者の様子や事業所の行事を報告するなど、なるべく家族と連携が図られるように取り組んでいる。中には、SNSのLINE機能を活用して、家族に動画を送信したり、連絡を取り合ったりする家族もいる。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	運営推進会議にて募りや夏祭り、芋炊きに参加して頂き本人の様子や他の利用者家族との交流の機会をつくっている。現在は感染予防のため実施できていない。	◎	/	○		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	月に1回のユニットぐんちゅう便りは個別に作成され送付している。ラインで写真や取った時に本人が言った言葉等を送り日々の様子を伝えコミュニケーションを行っている	◎	/	◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族と本人の関係性について理解し、関係性の構築等の支援を行う。会話が難しい方の側にスタッフがそばにつき、家族とコミュニケーションを図れるようにしている。加えて最近の様子を伝えている。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	月に1回送付するユニットぐんちゅう便りで行事等を知らせている。また、二か月に一回の運営推進会議にて、より細かく状況の報告に努めている	◎	/	/		○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	契約時に起こり得るリスクについて説明している。日常生活の中での変化はスタッフ間で話し合い管理者や副ホーム長・看護師が説明している	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	日々の生活の出来事は日勤スタッフが、料金がかかる事などの説明は副ホーム長が、医療的な事は看護師が、など、ある一定のスタッフが携わり家族との信頼関係に努めている	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時には、契約書に沿って詳しく説明している。納得・同意の上、書面上で契約している。一部は家族控えて保管して頂いている。おむつ代金変更があったが、その理由と変更金額を書面で報告した。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用者・家族の意見を聞き相談のうえ次の受け入れが決まってから退去に至っている。トラブル等はない。	/	/	/		
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域運営推進会議や避難訓練などで事業所の目的や役割などを説明理解を図っている	/	/	○	コロナ禍においても、事業所では、運営推進会議の参加メンバーの地域住民に対して、2か月に1回会議録とぐんちゅう便りに合わせて、行事食や手作りのおやつを自宅に届け、意見交換をするなどの交流を継続することができている。また、市内にある伊予農業高校の生徒との交流は長年続いており、野菜の苗や肥料を持って来てくれて、苗植えや水やりなどの世話をしたり、利用者と一緒に収穫を楽しんだりすることもある。コロナ禍以前は、秋祭りのほか、芋炊きなどを実施する際に、気軽に地域住民に参加してもらい、職員や利用者との交流を図ることができていたが、現在は開催を自粛しており、利用者や職員のほか、地域住民も再開できることを心待ちにしている。さらに、地域の理容室から、訪問美容に来てもらうなど、地域の社会資源を活用するようにしている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあいや、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近隣の方とは、日常の挨拶・秋祭りやお茶会など様々な交流に努めている。地域の活動(避難訓練)に参加している	/	△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	行事や勉強会など地域の方たちの来所が多くなり、見守ったり支援してくれる人達が増えてきている	/	/	/		/
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	秋祭りや芋炊きなどを庭で行う行事により地域の方が気軽に立ち寄って下さっている	/	/	/		/
		e	近隣の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらおうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近隣住民が伊予市の広報を利用者に持ってきてゆっくり話をしたり季節の野菜を頂いたりするなど日常的なおつきあいをしている	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	推進会議や、活動報告や行事案内などを用いて近隣住民に働きかけを行っている。活動の支援とまではいかないが、行事などで、地域住民の来所により利用者との馴染みの関係を築いている	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	馴染みの理容師の訪問を受けたり園芸セラピーで伊予農生と触れ合うなど利用者本人が豊かな暮らしを継続することを大切にしている	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	運営推進会議には、毎回決まった方の参加が多い。感染症予防のため今年に入り自社のみで行っている。	○	/	○	コロナ禍において、感染予防のため、事業所内で職員と利用者のみで運営推進会議を開催している。家族や会議の参加メンバーには、会議の資料や議事録、会議の様子の写真の送付などを行い、利用者や事業所の様子、外部評価などの説明や報告をしている。また、会議の参加メンバーには、会議の資料や事業所便りに合わせて、手作りのおやつや行事食、芋炊きなどを持って直接自宅に届けるなどの意見交換の場を作る工夫を行い、意見をもらうこともできている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	運営推進会議には、毎回決まった方の参加が多い。感染症予防のため今年に入り自社のみで行っている。	/	○	◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	運営推進会議には、毎回決まった方の参加が多い。感染症予防のため今年に入り自社のみで行っている。	/	/	◎	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を基に「和らかな言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」をケア目標とし、第二の我が家になるよう、職員皆で日々取り組んでいる	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ぐんちゅう便りに記載したり、玄関・ホールに「理念」「目標」を掲示するなどしている	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	実践者研修・相互研修・リーダー研修・管理者研修などの研修を受けることが出来るよう取り組んでいる	/	/	/	月1回代表者の来訪があり、利用者や職員と話しをしている。また、月1回法人の管理者会が実施され、代表者や部長に職員から出された意見を伝えることができ、職員から出された要望にも対応することができている。年2回代表者と職員が面談する機会もあり、直接意見や勤務形態の希望を伝えることができるほか、面談できなかった職員には、管理者が励みになるように、代表者の声を伝えている。さらに、事業所として、内部研修を実施するほか、ZOOM機能を活用した研修を受講しやすい環境を整えるなど、職員のスキルアップや意欲向上にも努めている。加えて、コロナ禍も長くなり、職員のストレスや不安にも配慮して、ねぎらいの意味も込めて、管理者自らが連続した4日間の休暇を取得して、他の職員にもリフレッシュできるように連休の取得を促すなどの工夫も行われている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	スキルアップに必要な資格取得に必要な費用など会社が一部負担してくれている。主になる資格取得には勤務調整・全額負担など行うこともある。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に二回の自己評価や毎月の管理者会での情報等を元に職員個々の勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場の環境条件を整備している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	一般社団法人愛媛県地域密着型サービス協会に加入し相互研修等参加している 市内のグループホーム・ネットワークに参加し、連絡会・研修会に参加している	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	休日希望・有給休暇や個々の職員の個性や特技などが生かせる様な職場づくりをしている	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	年間計画で高齢者虐待防止について学んでいる。また、認知症ケアの勉強会を行い虐待や不適切ケアを意識する事で抑止力に繋がりにくい環境をつくっている	/	/	◎	定期的に、内部研修のテーマに取り上げて、虐待や不適切ケアの防止などを学び、職員は実際にどのような行為が該当するかを理解している。また、申し送り時などを活用して、日々のケアを振り返る機会を持ち、職員は意識した言動に努めている。さらに、管理者は職員の様子にも気を配りながら、その都度相談に応じたり、勤務状況を検討したりするなど、職員が過度にストレスを抱え込まないような配慮も行われている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアでの振り返りを行い、どのようにしていくべきかの話し合いをつくっている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常業務の中でストレス、や疲労を感じている場面や言動はないか、ご利用者への対応・言葉づかいや表情はどうか観察・注意を払っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員全員と話し合い、正しく理解し行なっている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束・虐待防止員会を4回/年 勉強会を2回/年 行い利用者の現状に照らし合わせ話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	拘束や施設の要望はないが、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	勉強会をしつつ、学び、どのような制度での違いなどを含め理解したうえでパンフレットなどで説明をするなどを行い、支援を行っている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	二か月に一回の地位包括支援センターへの訪問や現在ご利用者が利用している社会福祉協議会在籍の後見人との連携に努めている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署での勉強会に参加したり、看護師の指導を受けるなど実践力を身に付けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故に繋がらそう小さなこともインシデント・アクシデントにまとめている。毎月の安全委員会で話し合い改善策をとっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	転倒リスクアセスメントや安全委員会にてリスクや危険について検討し事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルを作成し適宜対応方法について検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	介護相談員が2か月に一回来所し、利用者の思いや・悩みを聞き、助言を行って来ている	◎		◎	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で柔軟に対応をしている。入浴時など、利用者と職員が1対1となる機会など、ゆっくりと話せる時間に意見が出てくることがあり、職員は意見を聞き逃さないようにしている。家族からは面会時や電話連絡時を活用して、意見や要望を聞くよう努めている。また、日頃から管理者は、職員と一緒に業務に従事しており、意見や提案を聞く機会も多く、出された提案に対して、職員間で検討をしている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	法人事業所の相談窓口があるが、個別に伺う機会が多い。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は月に1回以上現場に足を運び直接職員とコミュニケーションを取り意見や要望を聞いている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃から、職員一人一人とのコミュニケーションに勤めると共に、目標シートの評価や自己評価等により多くの意見や提案を聴く機会を持ち、常に一緒に利用者本位について考えている			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の意義や目的を理解し、年に1回自己評価に取り組んでいる。				年1回、職員が外部評価の自己評価に取り組み、管理者等が取りまとめて作成をしている。また、安全委員会等の中で、サービスの評価結果を報告するとともに、利用者家族等アンケート結果を参考にしながら、目標達成計画に向けて取り組むなど、サービスの質の向上に繋げている。さらに、運営推進会議の参加メンバーや家族に、評価結果や目標達成計画などを報告することができている。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族に、目標達成に向けた取り組み状況の確認のモニターの協力を呼びかけて意見をもらったり、取り組み状況の経過を伝えたりするなどの工夫が行われることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	職員は、自己評価を通して事業所の現状を見つめ直し、課題を明確にして意識統一している。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	結果を踏まえ目標達成計画を作成し、事業所全体で取り組み継続している	○	△	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	評価結果と目標達成計画は、地域運営推進会議にて、家族・市役所・地域内法支援センター他各責任者に報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	様々な災害時の対応マニュアルがスタッフルームに置いており、全職員が周知出来るようにしている。	/	/	/	コロナ禍以前は、運営推進会議の参加メンバーに、事業所の避難訓練に参加してもらい、意見をもらうなどの協力支援体制を構築している。また、様々な災害マニュアルを整備するとともに、年2回様々な場面や災害を想定した避難訓練を実施している。さらに、災害発生時の避難する際に、避難援助に来た方達にも利用者の名前が分かりやすいように写真入りの名札を作成し、裏面に車いすやシルバーカーなどの移動方法、利用者が落ち着くように声かけ時に、家族の名前が分かるような工夫を行うほか、利用者に情報を2冊のファイルにまとめて、事務所に保管をしている。加えて、事業所として、水や食料などの備蓄品を用意するほか、地域住民の数名程度の備蓄も完備している。今年は、感染状況や感染対策に配慮しながら、集合形式の運営推進会議の開催に合わせて、管理者は避難訓練を実施したいと考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回の避難訓練は、消防署立会いの下で行っている。火災時の地震時の避難訓練(昼間・夜間の想定)ができた(今は感染予防の為自主に行っている)	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に消火設備、避難経路、非常食の食糧や物品の点検を行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	推進会議や避難訓練など日頃から地域住民や話し合いや訓練の場を持ち協力支援体制を確保している(今は感染予防の為自主に行っている)	○	○	◎	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	県民総ぐるみ地震防災訓練「シェイクアウトえひめ」に参加したり、他事業所と災害を想定した訓練を行っている(今は感染予防の為自主に行っている)	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	伊予市長寿介護課主催で行なわれるチームオレンジ定例会に参加し認知症ケアについて深く学び啓発活動等に取り組んでいる	/	/	/	地域住民から、今までに入居希望などの相談のほか、認知症などの相談に来所されたこともあり、管理者以外の職員でも、適切に対応できるようにしている。コロナ禍以前は、事業所の敷地内を開放して、一緒に地域住民と芋炊きをしたり、中学生の職場体験などの受け入れに協力することもできていた。また、事業所として、市行政が主体のボランティア活動グループのチームオレンジの会員となっており、地域行事を実施する際に、認知症カフェや介護相談を実施するなど、市や地域包括支援センターなどと連携を図りながら、地域活動に協力することもできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	普段から相談連絡に対応できるようスタッフ間認知症についてや介護保険の仕組みについて勉強し電話相談に対応できるようにしている	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	バザーや芋炊きなど地域の人たちが集まれる場所として事業所を解放している(今は感染予防の為行っていない)	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中高校生の職場体験や・大学生の実習等の受け入れに協力している(今は感染予防の為行っていない)	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市町や地域包括支援センター、他の事業所等、地域活動を協働しながら行っている。(今は感染予防の為参加できない)	/	/	◎	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 2 月 22 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	2名	

※事業所記入

事業所番号	3871000190
事業所名 (ユニット名)	ユニットぐんちゅう B棟
記入者(管理者) 氏名	森田みずほ
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 26 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 「悔いの残らないお世話をさせて頂き ます」</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①年に二回の避難訓練に家族の参加が無く情報の旧友ができていない ・感染対策により、避難訓練は自主にて行い、家族の参加はないが、報告書を作成し送付した ②地域のケア拠点としての機能ができていない ・感染予防のため、秋祭りやバザーなどを自主にて行ったため、地域の人が集う場所の提供はできていないが ・羊草き・お弁当・手作りおやつ・ぐんちゅう便り等配布し、少しでも地域とつながれるよう努めた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 平屋建ての事業所の窓からは、庭木や季節の花、野菜の栽培の風景がリビングから見え、季節の飾りもあり、利用者や来訪者は季節を感じることができる。利用者一人ひとりの希望や性格を尊重しながら、好きなことや得意なことを、楽しみのある役割として担ってもらいながら、日々職員は、笑顔のある生き活きた生活を送ることができるような支援に取り組んでいる。また、職員のアイデアから、身体機能に合わせた工夫が随所に見られ、職員の利用者に対する気づきや思いやりが感じられる。コロナ禍で外出や面会の制限が設けられている中でも、運営推進会議の参加メンバーとなっている地域住民の自宅に資料を届ける際に、行事食や手作りのおやつを持参して意見交換をするなど、交流を継続する工夫が行われているほか、地域の伊予農業高校の生徒と、事業所の畑での野菜栽培を通して交流を継続することもできている。さらに、利用者が食事を楽しみになるように、リクエストメニューの行事食を取り入れたり、ビュッフェ形式や折り詰め風にして、食事を提供したりする工夫も行われ、利用者には喜ばれている。加えて、職員がやりがいや楽しみを持ち続けながら利用者に関わることができるような体制が整っており、長年勤務している職員も多い。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>										
<b>(1)ケアマネジメント</b>										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の生活の中でのコミュニケーションを大切にし本人の思いや希望について聞くなど希望・意向の把握に努めている。	◎	/	◎	入居時に、管理者等は利用者や家族から、暮らし方の希望や意向を聞いて確認するほか、生活していく中で知り得た情報も含めて、アセスメントシート等に記録し、職員間で情報共有を行い、把握するようにしている。また、思いや意向を言葉に表しにくい利用者には、表情や様子から、思いをくみ取るよう努めている。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	自分では、どうしていいかわからない思いを伝えられない利用者には、その人の表情や行動・様子などを見て「本人はどう思っているのか」と考えている	/	/	/		
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	日々の生活の中で、ご家族や知人の来所時やメール、お電話や手紙で「本人の思い」について話し合っている。	/	/	/		/
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントや毎日の生活の中で得る情報を日々の記録や申し送りして伝える事を大切にしている。本人の状態の変化への対応も日々話し合っている	/	/	/		/
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員同士でお互いに思い込みや決めつけにならないよう、また偏らない様状況を共有し対処している。	/	/	/		/
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時にこれまでの暮らし、こだわり等をご家族から伺い、一人ひとりの暮らしや大切にしていることこの把握に努めている。また、日常生活の中で本人が気にしたり大切にしていることなど気になることがあれば、本人をよく知る人に聞きスタッフ間で共有している	/	/	◎	可能な場合には入居前に、管理者等が自宅を訪問して利用者や家族から、生活歴や生活環境、これまでの暮らしやこだわりなどの聞き取りをしている。以前利用していた介護サービス事業所の関係者から情報収集を行い、サービスに至るまでの経過や現状を把握することも。また、把握した情報はアセスメントシートに記載するほか、年度末に、情報の見直しや更新をするともに、新しい情報を追記をしている。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で本人が「できる事」「出来そうな事」を観察し現状の把握に努めている	/	/	/		
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	その日により、しんどい時には、無理をしない等の利用者の状態に応じ、対処していく。	/	/	/		/
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の暮らしを観察しコミュニケーションを取りながら、本人が必要としていること・求めていることは何か理解しようと努め検討している	/	/	○	利用者の性格や好きなこと、得意なことなどを把握して、私の暮らし方シートにまとめた情報をもとに、担当職員を中心に話し合い、利用者が何を求めて、何を必要としているかを利用者の視点で検討をしている。	
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアカンファレンスを定期的に行い、本人に合った支援になるよう課題の把握に努めている	/	/	/		
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	毎日の暮らしや会話の中の言葉を大切にし、その思いや意向を客観的にどのような支援が必要かを考える	/	/	/	事前に利用者や家族の意見や要望を聞くほか、主治医の指示やアドバイスをもらい、職員間で意見を出し合いながら話し合い、各ユニットの計画作成担当者が介護計画を作成している。また、利用者や家族のほか、職員等の意見が反映された計画となるよう努めている。さらに、介護計画の様式は、家族にとって分かりやすいように工夫されているが、近々、同法人内の他のグループホームと様式の検討を予定している。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人とは毎日の暮らしや会話の中で、ご家族とは面会時などコミュニケーションに動機意見やアイデアを出しやすい環境を作り反映するように努めている	○	/	○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	思いや意向を理解しようと努め意思の疎通が難しい方に対しても、尊厳を保持し穏やかに安全に過ごせるような内容に努めている	/	/	/		/
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	古くからの知人・馴染みの人や家族の協力を盛り込んだ内容がある	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者担当者のモニタリングやカンファレンスにてスタッフ間で介護計画の内容を把握・理解・協議しケアプランの作成に反させている	/	/	/	○ 利用者一人ひとりの介護計画は、職員がすぐ目にするのできる場所に置き、全ての職員が利用者の目標やサービス内容を把握できるようにしている。また、日々のケア記録にも、計画に沿ったサービス内容を実施した際に記録を残し、職員間で利用者の現状を確認できるようにしている。今後管理者は、継続して全ての職員が記録を記入しやすく、利用者の情報や様子を確認しやすい記録の様式の検討を予定している。さらに、3か月に1回モニタリングを実施し、利用者毎の担当職員が中心となり、介護計画に沿ったケアが実践できたかを確認している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	本人の言葉や行動・エピソードなど暮らしの様子や支援した具体的内容を記録し、定期的にモニタリング・カンファレンスを行い介護計画に沿ってケアが出来ているかカンファレンスを行い日々の支援に繋げている	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	最短で1ヶ月、または三ヶ月・六ヶ月等、状況に応じて見直しを行っている	/	/	/	◎ 介護計画は、6か月に1回を基本として、見直しをしている。入居後すぐや短期目標などの期間に応じて、1か月や3か月で計画の見直しをすることもある。また、毎月実施する安全委員会や申し送り等で、利用者の現状を確認するとともに、利用者毎の担当職員を中心に、3か月に1回モニタリングを実施し、評価を残している。さらに、利用者に変化や新たな要望が見られない場合にも、日々職員は利用者の現状の把握を行い、心身状態に変化や新たな要望があった場合には、随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当者は状況に応じて申し送りや話し合いを行い現状確認を行っている	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院や心身の状態の変化等により必要に応じて現状に即した新たな計画を作成している	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	朝・夕の申し送りやアセスメントシート又は安全委員会の開催など必要に応じてその都度話し合う機会を設けている	/	/	/	○ ユニット毎に、日々朝夕の申し送りを実施するほか、緊急時の話し合いが必要な場合には、その日の勤務職員で検討して対応を行い、結果を全ての職員に周知するようにしている。また、両ユニットの合同で、月1回安全委員会が開催され、利用者の様子や事業所の出来事などの情報共有が行われている。さらに、参加できない職員には、会議の前に意見を聞くほか、会議終了後には、記録を確認してもらうことができています。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日々、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを話せるよう雰囲気づくりに努め、会議でも活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	勤務表や日程の調整をしている。少しでも多くの職員が参加できるように努めている。話し合った内容は報告書を経て、又は申し送り・申し送りノート活用し周知に努めている	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り・申し送りノート・個別記録を活用し情報の共有に努めている。朝夕の申し送りで全体について、一日の流動的に起こる出来事についてはその都度共有している。重要事項は特に繰り返し朝夕の申し送りで共有するようにしている	◎	/	○ 日々、朝夕の申し送りを実施して、口頭で伝達している。また、職員は勤務に入る前に必ず申し送りノートを確認するとともに、確認後にはサインを残し、確実な情報の把握や共有に努めている。さらに、情報の伝達漏れがないように、特に重要事項は、重ねて口頭などで伝達をするようにしている。	
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	生活の中で一人ひとりの事をあえての事は、困難ではあるが、少しでも出来るよう努力している。	/	/	/	○ 起床時間や体操の実施の有無、衣服選び、昼寝、自室で過ごすなど、様々な場面で職員は利用者に声をかけて、自分のペースで希望に沿いながら、自己決定してもらえよう支援している。中には、自分のペースで起床し、ゆっくり朝食を食べる利用者もいる。また、体操やレクリエーションなどをしたくない場合には、自室でゆっくりしてもらうなどの対応をしている。さらに、日々利用者全員が、楽しみのある生き生きとした生活が送れるように、季節の花や行事の話題を出したり、好きな話題を提供したりするなど、利用者一人ひとりの好むことや喜ぶことを職員は把握して、声かけや環境づくりをしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	日々の暮らしの中、利用者の言動、表情などを観察し本人の希望を大切に支援している。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人のペースとタイミングに合わせて習慣を大切に支援している。夜に入浴したい方にも状況を説明しながら本人が納得できるような声掛け誘導に努める等、なるべく決まりや都合を優先していると感じて頂かない様に気を付けている	/	/	/	
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	優しい言葉がけを行い、少しずつ関わりを大切に。本人の表情に気をつけ、笑顔で雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の関わりを大切にし、丁寧な言葉かけ、表情を観察し本人の気持ちに寄り添うことに努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	日々の言動、状況に応じてプライバシーを大切に、孤立しないように工夫し、安心して生活が出来るよう努めている。	○	○	◎	○ 事業所として、職員が人権や尊厳などを考えて振り返る機会を持ち、日頃から利用者に対する意識した言動に努めていることもあり、プライバシーや羞恥心に細やかに配慮した様子を窺うことができた。また、トイレに番号や色を表示して、職員や利用者同士が共通して認識できるようにしており、職員同士が利用者のトイレ誘導に関わる情報を共有する時に、「〇番に〇〇さんが入っています」などと伝える工夫を行い、あからさまな声かけにならないようにしている。さらに、居室をプライベートな空間であることを認識し、入室の際に、職員は声かけやノックをしてから入室することができるように、管理者等は職員への周知徹底に努め、実践することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	個々に違いがあるが、排泄時、入浴時にも、声掛けし不安がないよう安心安全な介助に努めている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	自室は、憩いの場、安心できる場所であるため出入りにも十分配慮し心掛けている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	職員は、会社との面談等でプライバシーの保護の個人情報を理解し、守っている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者の言動に傾聴し、感謝の気持ちを大切にしてお互いに関係づくりに努めている。				職員は、利用者の性格や関係性を理解して、席の配置に考慮するほか、言い合いなどが見られた場合には、早期に間に入って対応するなど、大きなトラブルが起こらないような配慮に努めている。中には、良好な関係性ができている利用者同士もあり、お互いに気にかけて励ましの声をしたり、支え合ったりする場面も見られる。また、午前中の体操は、基本的に両ユニットの利用者が集まって一緒に行っており、交流することでより良い相乗効果が生じている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共同生活の中でお互いが支え合う事の意識を理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し早めに対応し、席の配慮を替えたり、利用者が孤立にならないよう支援に努める				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルに対してはスタッフ間で早めに情報を共有し、利用者が不安にならないよう対応に努めている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前の生活状況(アセスメント)にも注目し、本人と家族などスタッフ間で情報共有している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	知人の方の訪問、ミニ情報持参で本人との関わりを大切にしている馴染みの美容室を利用し、楽しい時間に努めている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	コロナ感染予防の為、現在実施できていないが、コロナ前は、季節に応じた行事、花見や、菜の花、コスモス畑へのドライブ等、実施できている。	○	○	○	コロナ禍において、事業所には外出制限が設けられ、外出できる機会が減少している。日常的に、庭や畑に出て外の空気を感ぜてもらったり、天気の良い日には、近隣にある神社まで散歩したりするなど、外出できる機会を設けて、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。コロナ禍以前は、月1回ドライブをして、季節の花を見に行くなどの外出支援することもできていた。毎年恒例にしていたいちご狩りに出かけており、今年は感染状況を鑑みたく上で、例年のように貸し切りにして実施するなど、感染対策を十分に講じた上で開催できるように、職員間で検討をしている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	コロナ感染予防の為、現在、実施できていないが、以前は、地域の方と、いちご狩り、羊焼き等、外出できていた。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	定期的に内部研修を行い、認知症について理解を深め、職員同士、カンファレンス等にて話し合い、利用者の不安を取り除くケアを行なっている。				担当職員を中心に、利用者一人ひとりのできることやできないことを把握し、必要以上に手や口を出しすぎないような支援に努めている。また、利用者の身体機能や安全性を十分に考慮して検討した上で、ベッドから立ち上がり、居室内を移動する際に、自力で安全に移動できるように家具の配置場所を工夫するなど、利用者の残存能力を活かせるような環境づくりに取り組んでいる。さらに、利用者のできる洗濯物たたみや食器拭きなどの生活リハビリをしたり、体操や散歩を取り入れたりするなど、利用者の心身機能の維持にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	食事前に、利用者全員で口腔体操を行ったり、嚥下機能が低下している利用者に対しては、個別にてアイスマッサージを行うなど、取り組んでいる。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	野菜の皮むきや、洗濯物たたみ等の手伝いの他、多少、時間がかかっても、更衣や自力摂取できるよう見守っている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	編み物や、縫い物、写経や花の水やり等、利用者それぞれの、得意なことや楽しみを把握できている。				洗濯物干しやたたみ、畑の野菜の世話、掃除、食事のおぼん拭きなど、利用者一人ひとりの得意なことのほか、希望に合わせて役割を担ってもらい、生活の中に張り合いや出番を作っている。中には、食事の下準備の際に、包丁を持って野菜を切ることができていた利用者が、高齢化に伴い、包丁を持つことが難しくなってきたこともあり、皮むきピーラーに変えるなどの工夫を行い、レベルが変わっても役割として、少しでもできることを継続してもらえるように取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	中庭での野菜の収穫や、ホーム内でのレクリエーションや壁画作りなど、利用者の特性に合わせて楽しんでもらえるよう、取り組んでいる。	○	△	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者さんの好みの服を着用されるよう声掛けをしている				起床時に、服を選んで着替えることのできる利用者がいるほか、職員は声かけをして、着たい服を選んでもらうなどの支援をしている。また、整容の乱れや汚れなどが見られた場合には、職員は利用者のプライドや気持ちを大切に声かけや対応を行っている。さらに、利用者の清潔感に配慮しながら、定期的に訪問理容を利用して、好みの髪型に散髪してもらうほか、職員の手編みの帽子を愛用している利用者もいる。加えて、夏には利用者一人ひとりが浴衣を着て化粧をするなど、おしゃれを楽しめる環境づくりに努め、利用者には喜ばれている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	スカーフや帽子、ヘアピンなどで自分らしさをアピールしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	どちらがいきいか訪ねる。そうではない方にはこちらからアドバイスしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合った服装や行事など活動しやすい服装に支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくてさきげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さり気ない声掛けや誘導を行いプライドを大切にしている	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	好みの髪形などを理容師さんに伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	洋服に着替える時や・面所での整髪時など、声掛けを行い本人らしさを大切にしている			○	
		h	職員の、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者は、食事をとても楽しみにしており、今日のメニューを聞いてきたり、またこちらから伝えたりすると喜ばれる。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者は、食事をとても楽しみにしており、今日のメニューを聞いてきたり、またこちらから伝えたりすると喜ばれる。				事業所では、食材の宅配サービスを利用しており、業者から野菜や肉類などが届けられ、業者作成のレシピ付きの献立表に沿って、利用者に野菜の皮むきなどの調理の下ごしらえやお盆拭き、後片づけなどを手伝ってもらいながら、片方のユニットでまとめて、職員が調理をしている。月1回配食サービスを休止し、利用者のリクエストメニューを取り入れて、芋炊きやお好み焼きなどを提供し、利用者には喜ばれている。週に数回、おやつを手作りしており、利用者も手伝う過程から楽しみにしている。事業所の畑で収穫した季節毎の旬の野菜が食卓に上ることもあり、献立に一品加えるなどのアレンジをしている。食器類は、利用者の使い慣れた物や使いやすい物を使用しており、なるべく陶器の食器に盛り付けるようにしている。コロナ禍もあり、食事の際には、職員は利用者と一緒に食事を摂っていないが、お茶タイムの時などに、同じテーブルを囲んで、職員とゆっくり談笑する時間を設けている。また、重度の利用者も含めて、利用者全員が食事を楽しめるように、栄養士の資格を持つ職員と相談しながら、ビュッフェ形式にしたり、折り詰め風にししたりして食事を提供するなどの工夫も行われている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	庭の野菜を収穫し「何にしたら美味しいか」など一緒に考えたり、じゃがいもの皮むきや、もやしの根切り・栗の皮むきなど喜んで丁寧をやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	おやつ作りの時など手伝ってもらって「私が作ったんよ。」と嬉しそうに言っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握していて、除去したり、好きなものは少し多くおげたりしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	春の木の芽時などは、つくしやふき、たけのこ等話しながら下ごしらえを手伝ってもらい取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者にあわせて調理方法をとっているが視覚も大事と思っているので盛りつけ等工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の使い慣れた物を持参して頂き使用したり、本人の使いやすいものを使用している。食器はなるべく陶器を使用している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	普段、一緒に食卓を囲むことはないが、側で様子を見守りさり気なくサポートを行っている			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	施設では、重度の方はいないが、今日のメニュー等をお伝えしたり、匂いや音など感じる事を言葉で伝え食事が楽しめるような雰囲気作りに努めている	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者一人一人違うので軟飯やおかゆ、キザミ食を提供している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	傾眠が強い利用者様がいる場合は、時間をずらして食事を提供している。また、低栄養にならない様に栄養ゼリーなどを用いるなど工夫している				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	季節にあったお楽しみ会を実施しており、栄養士の指導の下、お花見や百寿のお祝いの時、お重に詰めて提供したり、ビュッフェで一人ひとりが料理を取ったりする形式を行っている。			◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	少しでも汚れたり、汚れが目立つ所、調理器具をハイターにつけたりして、衛生に努めている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	毎食後の歯磨きの徹底入れ歯も外してきれいに洗い口の中をよくゆすいで頂くことをしている。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。必要に応じて、職員は見守りやサポートしている、自分で口腔ケアができる利用者を含めて、口腔ケア時やタイミングを見計らいながら、全ての利用者の口腔内の観察を行い、状態を把握することができている。また、歯科医の訪問もあり、職員はアドバイスを受けて、口腔ケアの重要性を理解するとともに、利用者一人ひとりの口腔内の状態に合わせて、歯間ブラシやスポンジなどの用具も使い分け、適切な口腔ケアの実施に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	義歯に名前を銘記し、各人の器保管している。舌ブラシも活用している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	「口腔ケアのポイント」を、洗面所に貼りチェックしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後の口腔ケアを実践し、義歯を外して洗浄するのを確認できていない人には声掛け介助している。夜間、洗浄する	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	口腔ケアの嫌いなにも声掛けをし、日常的に習慣づけるようになっている。口腔ケアの大切さを知ってもらえるよう声掛けしている。定期的な訪問歯科にて口腔内のチェックを行っている	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	出来る限りトイレで排泄できるよう本人に声掛けし介助している。失敗してもさり気なく片づけをしている使用済パット等は、新聞紙に包み、他者にわからないよう工夫をしている。	/	/	/	立位の困難や身体状態により、事業所にはおむつを使用している利用者もいるが、基本的に、利用者一人ひとりに合わせて、トイレで排泄できるよう支援している。中には、入居時に紙パンツとパッドを使用していた利用者が、排泄のタイミングに合わせて、職員がこまめな声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツとパッドの大きさを小さくできた事例もあるなど、排泄方法などを見直ししながら、利用者の自信に繋がるような支援にも取り組んでいる。また、トイレの出入り口は3枚扉になっており、左右のどちらからでも開くような工夫が行われ、利用者が出入りをしやすくなっている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排便回数を確認し、食事量の変化・摂取水分量を把握。排便の無い人は、野菜摂取・水分の摂取の声掛け	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	トイレの長時間行っていないひとにさりげなく声掛けをしている。「トイレ空いてるよ」「早めに行っておきますか?」	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	体調悪く、オムツ利用している方も、その日の体調によって紙パンツ使用でトイレ誘導するよう努めている。使用の必要性や適切性について常に見直しその人に合った支援を心がけている	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	一日の水分摂取量、食事量の把握。排泄リズムを把握して、水分摂取に努め、薬が必要な方には、医師から処方してもらっている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	本人の排泄リズムにあったトイレ誘導をすることによって、失禁をなくす努力をしている。便失禁をなくすよう、誘導を行なっている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人の気に入った尿吸収パッドを利用してもらっている。家族に了解を得て、お試しを利用し、使用してもらっている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中、尿失禁の少ない利用者さんは、布パンツ・パッドを利用してもらい、夜間紙パンツに交換する方もいる。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘予防の為、牛乳・ココア・ミルクの提供など個々に合った飲食物を工夫したり、腹部マッサージや排便体制の助言・健康体操や歩行を促すなど色々な取り組みを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	個々好み温度を把握し、追い焚き、運目の声掛け等工夫している。湯船に入れる人には、湯につかってもらい、喜んでもらっている。曜日や時間帯は基本的には決まっているが本人の要望に合わせて支援している	◎	/	○	事業所として、入浴できる曜日や時間帯が決められ、週2回入浴できるようになっているが、利用者の状況に応じて、湯の温度や入浴日の変更など、臨機応変に対応している。また、なるべく湯船で浸かり、温まってもらえるように、職員は利用者のペースで入浴してもらうように声かけをしている。中には、希望して、毎日足浴をしている利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだり気分が入浴できるよう支援している。	◎	利用者、1人ひとりに合わせた会話の提供をし、ゆったり、くつろいで入浴できるよう支援できている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人の様子を見ながら、声掛けし出来るところは本人に任せ、見守りしながら安心して入浴できるよう支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	明るく声掛けし、話をしっかり聞き、本人が納得してから入浴できるようにしている。どうしても、気分が乗らない時は、入浴の順番や、日をずらす等、工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	その日の申し送りや、バイタル測定にて、健康状態を確認してから、入浴の可否を決定している。入浴後の状態も確認できている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	利用者、1人ひとりの入眠時間、トイレに起きる時間、起床時間等、把握できている。	/	/	/	事業所には、眠剤などを服用している利用者もいるが、日中の過ごし方のほか、利用者の生活リズムを把握して、環境を整えたりするなどの工夫を行い、利用者が夜間に安眠できるよう支援している。また、必要がある利用者には、1日の睡眠時間をケア記録にマークで記載して睡眠状態の確認を行い、主治医や薬剤師に相談して連携を図りながら、漢方薬の服薬に繋げるなど、安易に睡眠導入剤の使用に頼らないような支援にも努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、照明の工夫をする等、1日の生活リズムを整える取り組みを行っている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	介護職員、看護師で日々、支援内容について話し合い、医師とも相談しながら、利用者の体調を考慮し、日々の支援を行なっている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	長時間、話が盛り上がっている利用者や、座りっぱなしの利用者には、声掛けし、自室にて休息、昼寝をしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人からの訴えがあればホームの電話又本人の携帯電話を使用し電話している。季節の節目(暑中見舞いや年賀状)に手紙を出している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	コミュニケーションを図りながら家族さんへ伝えたいこと、思いを引き出し書きとめている。代筆他名前だけ本人に書いて頂く、はがきの装飾など出来ることをして頂いている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人からの訴えや不安時にこちらから提案する等本人が電話できる環境をつくっている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人が読んでいる姿を写真に撮り家族さんへ送っている。可能な方は、返事の手紙を送る。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	お願せずとも電話やお手紙をくれる家族さんが多い。また、本人が寂しさや不安で元気が無い時には、協力をお願いする電話やメールをする事もある	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	使う事の意味や大切さは十分に理解した上で、本人・家族と相談しながら管理している	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	本人からの訴えがあれば必要であれば家族へ許可を頂き代理で購入している。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金の管理は出来ないが、不安を強く感じられる利用者には、おもちゃのお札を渡し安心に繋げている。基本的には立替になっているが小銭入れに少量の金額を所持して頂くなど一人一人の状態に合わせて支援している	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要な物がある場合、家族の相談し、同意を得てから購入している。代金は立替金として、帳簿に記入している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	GH内の金庫にて利用者の財布を預かったり、家族に報告し、返金したりしている。個人の立替金については帳簿にいつ、何を購入したかを明確に記入している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族の対応が難しい場合、スタッフが通院などに付き添う。今はコロナ等の感染予防の関係で外出は難しいが、コロナが流行する前は、利用者と一緒に買い物に行ったりしていた。	◎	/	◎	コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられ、対応できにくいこともあるが、利用者や家族から出された要望には、柔軟に対応している。衣替えの際に、利用者の家に職員と一緒に行き、利用者の希望する衣類などを事業所に持って帰ったり、コロナ禍において、実際に法事に参加することが難しいため、事業所からZOOM機能を活用して、リモートで法事に参加したりするなど、利用者や家族の希望や思いに添えるように取り組んでいる。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	日勤スタッフがいる時間帯は、玄関の鍵を開けている。中庭に季節の野菜など植えている。畑には、伊予農の生徒さんと一緒に野菜を育てている。	◎	○	◎	道路沿いに看板が設置され、事業所前の道路からも場所が分かりやすいように駐車場も敷地内にあり、車でも来訪しやすくなっている。事業所の建物は平屋で、両ユニットのリビングから庭や駐車場の様子が見え、職員は来訪者を分かりやすくなっている。また、庭木や季節の花、畑の野菜は手入れが行き届き、明るく開放的な雰囲気を感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に季節の飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	アットホームな環境作りをスタッフ全員で心掛けており、壁面を利用者と一緒作り、季節に合わせて替えている。庭に咲いている花を花瓶に生けて、落ち着けるような雰囲気になるように配慮している。	○	◎	◎	平屋の事業所は玄関ホールを通して、気軽に利用者はユニット間を行き来することができるようにしている。明るいリビングの窓から、庭木や季節の花、野菜栽培の様子を眺めることができるほか、職員や他の事業所から菜の花やコスモスなどの季節の花を持ってきて生けることもあり、利用者や来訪者は季節を感じることができる。調査調査日には、リビングに活ける梅の花を職員と利用者が一緒に眺めて、会話する場面を見ることができた。調査の翌月のひな祭りに合わせて、ひな人形が飾られており、春らしく華やかな雰囲気も感じられた。また、事業所ではウサギが飼育され、利用者は触れ合いを楽しみにしている。玄関ホールにウサギの部屋があるが清掃が行き届き、いやな臭いなども感じられなかった。さらに、開設当初からリビングの一角に掘りこたつを設置した畳スペースを設けているが、近年利用者が使用しなくなったこともあり、新たに利用者にとって有効的な使用方法ができるように改修を検討している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	射光カーテンにて日差しを調節し、排泄後は窓を開けたり消臭剤を使用している。			◎		
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	中庭や玄関先に誘導したり、居室の窓を開け外の景色を見てもらう。季節の花を活けたり、歌や壁の飾り、季節を感じてもらったり、話題提供している。				◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士のテーブルの配置、移動やレクリエーション時にも話ができるよう配慮している。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	興味がある物、好み、こだわりのあるものを提供し必要時には家族に問い合わせるなどを協力してもらっている	○		◎	居室には、ベッドやエアコン、チェスト、縦長収納が備え付けられている。利用者は、テレビや机、いすなどの馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができるほか、事業所で用意した壁掛けコルクボードに、家族の写真や職員からの誕生日カード、自作の作品を飾るなど、利用者が安心して居心地良く過ごせるような空間づくりが行われている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	利用者のできることやわかることを見つけ、見守りや一部介助にて少しでも自立の場面を作っている			◎	各居室やトイレなど、利用者が分かりやすいように表示を付けている。また、色や番号で表しているトイレもあり、利用者にとって認識しやすく、プライバシーにも配慮できるような工夫も行われている。また、トイレの電気はセンサースイッチとなっているため、利用者に対して自動で電気が消える説明をトイレのドアに貼り、職員も声をかけて、混乱しないような対応にも努めている。加えて、シルバーカーを使用している利用者もおり、居室内に置く位置を確認としてベッドサイドに赤いテープの目印を貼り付け、利用者が安全にベッドに座れるようにしている。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	得意なことを発揮できるように工夫している活け花の道具(花瓶・ハサミ等)の用意 縫い物や雑巾縫い、新聞や週刊誌提供、好きなTV番組の時間を伝え観覧場所を提供する等					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることなく済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	代表者及びすべての職員は、玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており、居室や各棟の出入り口の鍵はかけていない。玄関の鍵を掛けない事について、不審者などの出入りも想定する必要があり、課題を感じている。	x	x	◎	職員は、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関の鍵は施錠しておらず、両ユニットの入り口も常に開放している。夜間は防犯のため、18時から8時まで玄関の施錠をしている。また、利用者は職員と一緒に気軽に庭に出て外の空気を感じられ、開放的で自由な雰囲気の中で過ごすことができている。さらに、日中に玄関を施錠しない方針は変わらないが、福祉施設や保育施設などの全般において、外部から不審者の侵入などの事件なども相次いでいることから、管理者は、いざという時に利用者や職員を守るような対策を立案している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全を優先するために施錠を望む家族は少ないが、利用者の居室やトイレなどには、鍵を掛けず利用者の安全を守るよう工夫している					
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者に合わせてどのように介助や対応をしていくかを把握しつつ行っている。					
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	利用者の体調の変化などがあれば日々の記録に残している。利用者の表情などを見つ様子を見ている。					
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあればバイタル測定を行い、看護職に報告し、かかりつけ医などに相談し、入院かどうかを決めている。					
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居の際に訪問診療を勧めているため、主治医変更する場合もあるが、2カ所の訪問診療先を選べるようにしている。	◎				
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	2カ所の訪問診療先の説明を行い、納得した上で訪問診療を決定している。					
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	家族が通院できない時は、医療連携看護師が付き添い、結果を家族に報告している。臨時で往診した時は受診前後に家族に報告出来ている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	食事形態や介助の方法を詳しく情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院後も本人の状況の確認を行い、どれくらいになったら退院できるか相談している。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	介護士は、日々の中で少しでも疑問に思ったり、変化があった時は、医療連携看護師に相談できている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携看護師が待機携帯を持っており、24時間連絡がつくようになっている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	1日1〜3回利用者に合わせて、バイタルサイン測定を行い、異常の早期発見が出来るようにしている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	介護スタッフが薬の副作用まで理解出来ていないが、異常時や何か変化があった時は、看護師に相談している。看護師が、家族や医師に相談・報告している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	写真つきの内服確認表を作成し、1回分づつ個人に分けて管理し、飲み忘れが無いようにしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	利用者の症状が副作用化どうかは分かり難いが、何かあった時は薬による影響ではないかの話し合いをしている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時・重度化した場合に、看取りについての確認を家族を中心に行っている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における(看取り)指針」があり、入居時に、利用者や家族に対応できることなどを説明している。開設当初から、看取り支援に実施しており、入居時に説明するほか、状態の変化に応じて、看取り支援の必要が出てきた場合に再度説明を行い、家族等と話し合いをしている。また、看取り支援が必要となった場合には、利用者や家族のほか、主治医や看護師、職員を交えて話し合い、方針を共有して、チーム体制で支援に取り組んでいる。さらに、看取り支援後には、職員からアンケートを取る機会を設けて、今回の看取り支援の思いを書き出すことで振り返りを行うなど、職員の気持ちにも寄り添えるような支援に努め、次の支援にも繋げている。加えて、面会制限が設けられているが、看取り支援時には、家族との面会を可能としている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化した場合には、家族の意向を踏まえて、訪問診療先の医師や看護師と相談し、終末期カンファレンスを開催し方針を決定している。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	当施設では吸引ができるスタッフ3名の為、常時吸引が必要な利用者は看取りが出来ないため、入院先と退院できるかどうかの確認を行なっている。看取りの後、スタッフの思いを聞き取っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	吸引が必要な場合に、頻回な吸引は出来ない事や、夜間は1人で対応していることを説明し理解してもらっている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	状態が変化した場合、スタッフ間でカンファレンスを行い、更に訪問診療先とも話し合いを持っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	コロナで面会が出来ないが、急変・看取り時は居室での面会出来るようにしている。又、少しでも状態変化時は家族に電話で報告し、家族の思いを聴くようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染委員や感染委員会をもうけており、社会状況を見ながら対応をとり、早期発見、対応に努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	発生時の連絡方法、対処の仕方について話し合い出来ている。5月20日のデモンストレーションを行った。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	毎日のコロナ感染者の把握・注意をうながし感染予防に努めている。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤前の手洗い、うがいを徹底出来ている。利用者一人一人ですてき手袋を変えている。来客者についても検温・来所記録をとっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族とのライン交換、必要時の状態等、密に連絡出している。家庭状況を把握して一緒に本人について考えていく事を大切にしている	/	/	/	コロナ禍以前は、家族に呼びかけて、事業所の行事に参加協力してもらう機会を設けることができていたが、現在は感染予防のために中止をしている。事業所には面会制限が設けられ、家族が来訪する機会は減っているものの、オンラインの面会に対応するほか、感染状況を見計らいながら、窓越しなどの面会にも対応をしている。また、月1回発行するぐんちゅう便りは、担当職員が利用者一人ひとりの写真を掲載した個別のものを作成して家族に送付しており、日々の利用者の様子や事業所の行事を報告するなど、なるべく家族と連携が図られるように取り組んでいる。中には、SNSのLINE機能を活用して、家族に動画を送信したり、連絡を取り合ったりする家族もいる。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	運営推進会議にて募りや夏祭り、芋炊きに参加して頂き本人の様子や他の利用者家族との交流の機会をつくっている。現在は感染予防のため実施できていない。	◎	/	○		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしふりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	月に1回のユニットぐんちゅう便りは個別に作成され送付している。ラインで写真や取った時に本人が言った言葉等を送り日々の様子を伝えコミュニケーションを行っている	◎	/	◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族と本人の関係性について理解し、関係性の構築等の支援を行う。会話が難しい方の側にスタッフがそばにつき、家族とコミュニケーションを図れるようにしている。加えて最近の様子を伝えている。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	月に1回送付するユニットぐんちゅう便りで行事等を知らせている。また、二か月に一回の運営推進会議にて、より細かく状況の報告に努めている	◎	/	/		○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	契約時に起こり得るリスクについて説明している。日常生活の中での変化はスタッフ間で話し合い管理者や副ホーム長・看護師が説明している	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	日々の生活の出来事は日勤スタッフが、料金がかかる事などの説明は副ホーム長が、医療的な事は看護師が、など、ある一定のスタッフが携わり家族との信頼関係に努めている	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時には、契約書に沿って詳しく説明している。納得・同意の上、書面上で契約している。一部は家族控えて保管して頂いている。おむつ代変更があったが、その理由と変更金額を書面で報告した。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用者・家族の意見を聞き相談のうえ次の受け入れが決まってから退去に至っている。トラブル等はない。	/	/	/		
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域運営推進会議や避難訓練などで事業所の目的や役割などを説明理解を図っている	/	/	○	コロナ禍においても、事業所では、運営推進会議の参加メンバーの地域住民に対して、2か月に1回会議録とぐんちゅう便りに合わせて、行事食や手作りのおやつを自宅に届け、意見交換をするなどの交流を継続することができている。また、市内にある伊予農業高校の生徒との交流は長年続いており、野菜の苗や肥料を持って来てくれて、苗植えや水やりなどの世話をしたり、利用者と一緒に収穫を楽しんだりすることもある。コロナ禍以前は、秋祭りのほか、芋炊きなどを実施する際に、気軽に地域住民に参加してもらい、職員や利用者との交流を図ることができていたが、現在は開催を自粛しており、利用者や職員のほか、地域住民も再開できることを心待ちにしている。さらに、地域の理容室から、訪問美容に来てもらうなど、地域の社会資源を活用するようにしている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあいや、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近隣の方とは、日常の挨拶・秋祭りやお茶会など様々な交流に努めている。地域の活動(避難訓練)に参加している	/	△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	行事や勉強会など地域の方たちの来所が多くなり、見守ったり支援してくれる人達が増えてきている	/	/	/		/
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	秋祭りや芋炊きなどを庭で行う行事により地域の方が気軽に立ち寄って下さっている	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらおうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近隣住民が伊予市の広報を利用者に持ってきてゆっくり話をしたり季節の野菜を頂いたりするなど日常的なおつきあいをしている	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	推進会議や、活動報告や行事案内などを用いて近隣住民に働きかけを行っている。活動の支援とまではいかないが、行事などで、地域住民の来所により利用者との馴染みの関係を築いている	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	馴染みの理容師の訪問を受けたり園芸セラピーで伊予農生と触れ合うなど利用者本人が豊かな暮らしを継続することを大切にしている	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	運営推進会議には、毎回決まった方の参加が多い。感染症予防のため今年に入り自社のみで行っている。	○	/	○	コロナ禍において、感染症予防のため、事業所内で職員と利用者のみで運営推進会議を開催している。家族や会議の参加メンバーには、会議の資料や議事録、会議の様子の写真の送付などを行い、利用者や事業所の様子、外部評価などの説明や報告をしている。また、会議の参加メンバーには、会議の資料や事業所便りに合わせて、手作りのおやつや行事食、芋炊きなどを持って直接自宅に届けるなどの意見交換の場を作る工夫を行い、意見をもらうこともできている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	運営推進会議には、毎回決まった方の参加が多い。感染症予防のため今年に入り自社のみで行っている。	/	○	◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	運営推進会議には、毎回決まった方の参加が多い。感染症予防のため今年に入り自社のみで行っている。	/	/	◎	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「悔いの残らないお話をさせていただきます」を基に「和らかな言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」をケア目標とし、第二の我が家になるよう、職員皆で日々取り組んでいる	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ぐんちゅう便りに記載したり、玄関・ホールに「理念」「目標」を掲示するなどしている	○	△	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	実践者研修・相互研修・リーダー研修・管理者研修などの研修を受けることが出来るよう取り組んでいる	/	/	/	月1回代表者の来訪があり、利用者や職員と話しをしている。また、月1回法人の管理者会が実施され、代表者や部長に職員から出された意見を伝えることができ、職員から出された要望にも対応することができている。年2回代表者と職員が面談する機会もあり、直接意見や勤務形態の希望を伝えることができるほか、面談できなかった職員には、管理者が励みになるように、代表者の声を伝えている。さらに、事業所として、内部研修を実施するほか、ZOOM機能を活用した研修を受講しやすい環境を整えるなど、職員のスキルアップや意欲向上にも努めている。加えて、コロナ禍も長くなり、職員のストレスや不安にも配慮して、ねぎらいの意味も込めて、管理者自らが連続した4日間の休暇を取得して、他の職員にもリフレッシュできるように連休の取得を促すなどの工夫も行われている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	スキルアップに必要な資格取得に必要な費用など会社が一部負担してくれている。主になる資格取得には勤務調整・全額負担など行うこともある。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に二回の自己評価や毎月の管理者会での情報等を元に職員個々の勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場の環境条件を整備している。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	一般社団法人愛媛県地域密着型サービス協会に加入し相互研修等参加している 市内のグループホーム・ネットワークに参加し、連絡会・研修会に参加している	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	休日希望・有給休暇や個々の職員の個性や特技などが生かせる様な職場づくりをしている	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	年間計画で高齢者虐待防止について学んでいる。また、認知症ケアの勉強会を行い虐待や不適切ケアを意識する事で抑止力に繋がりにくい環境をつくっている	/	/	◎	定期的に、内部研修のテーマに取り上げて、虐待や不適切ケアの防止などを学び、職員は実際にどのような行為が該当するかを理解している。また、申し送り時などを活用して、日々のケアを振り返る機会を持ち、職員は意識した言動に努めている。さらに、管理者は職員の様子にも気を配りながら、その都度相談に応じたり、勤務状況を検討したりするなど、職員が過度にストレスを抱え込まないような配慮も行われている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアでの振り返りを行い、どのようにしていくべきかの話し合いをつくっている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	日常業務の中でストレスや疲労を感じている場面や言動はないか、ご利用者への対応・言葉づかいや表情はどうか観察・注意を払っている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員全員と話し合い、正しく理解し行なっている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束・虐待防止員会を4回/年 勉強会を2回/年 行い利用者の現状に照らし合わせ話し合っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	拘束や施設の要望はないが、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示している	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	勉強会をしつつ、学び、どのような制度での違いなどを含め理解したうえでパンフレットなどで説明をするなどを行い、支援を行っている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	二か月に一回の地位包括支援センターへの訪問や現在ご利用者が利用している社会福祉協議会在籍の後見人との連携に努めている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生時に備え対応マニュアルを作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署での勉強会に参加したり、看護師の指導を受けるなど実践力を身に付けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故に繋がらそう小さなこともインシデント・アクシデントにまとめている。毎月の安全委員会で話し合い改善策をとっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	転倒リスクアセスメントや安全委員会にてリスクや危険について検討し事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルを作成し適宜対応方法について検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	介護相談員が2か月に一回来所し、利用者の思いや・悩みを聞き、助言を行って来ている	◎		◎	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で柔軟に対応をしている。入浴時など、利用者と職員が1対1となる機会など、ゆっくりと話せる時間に意見が出てくることがあり、職員は意見を聞き逃さないようにしている。家族からは面会時や電話連絡時を活用して、意見や要望を聞くよう努めている。また、日頃から管理者は、職員と一緒に業務に従事しており、意見や提案を聞く機会も多く、出された提案に対して、職員間で検討をしている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	法人事業所の相談窓口があるが、個別に伺う機会が多い。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は月に1回以上現場に足を運び直接職員とコミュニケーションを取り意見や要望を聞いている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃から、職員一人一人とのコミュニケーションに勤めると共に、目標シートの評価や自己評価等により多くの意見や提案を聴く機会を持ち、常に一緒に利用者本位について考えている			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の意義や目的を理解し、年に1回自己評価に取り組んでいる。				年1回、職員が外部評価の自己評価に取り組み、管理者等が取りまとめて作成をしている。また、安全委員会等の中で、サービスの評価結果を報告するとともに、利用者家族等アンケート結果を参考にしながら、目標達成計画に向けて取り組むなど、サービスの質の向上に繋げている。さらに、運営推進会議の参加メンバーや家族に、評価結果や目標達成計画などを報告することができている。コロナ禍の収束後には、会議の参加メンバーや家族に、目標達成に向けた取り組み状況の確認のモニターの協力を呼びかけて意見をもらったり、取り組み状況の経過を伝えたりするなどの工夫が行われることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	職員は、自己評価を通して事業所の現状を見つめ直し、課題を明確にして意識統一している。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	結果を踏まえ目標達成計画を作成し、事業所全体で取り組み継続している	○	△	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	評価結果と目標達成計画は、地域運営推進会議にて、家族・市役所・地域内法支援センター他各責任者に報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	様々な災害時の対応マニュアルがスタッフルームに置いており、全職員が周知出来るようにしている。	/	/	/	コロナ禍以前は、運営推進会議の参加メンバーに、事業所の避難訓練に参加してもらい、意見をもらうなどの協力支援体制を構築している。また、様々な災害マニュアルを整備するとともに、年2回様々な場面や災害を想定した避難訓練を実施している。さらに、災害発生時の避難する際に、避難援助に来た方達にも利用者の名前が分かりやすいように写真入りの名札を作成し、裏面に車いすやシルバーカーなどの移動方法、利用者が落ち着くように声かけ時に、家族の名前が分かるような工夫を行うほか、利用者に情報を2冊のファイルにまとめて、事務所に保管をしている。加えて、事業所として、水や食料などの備蓄品を用意するほか、地域住民の数名程度の備蓄も完備している。今年は、感染状況や感染対策に配慮しながら、集合形式の運営推進会議の開催に合わせて、管理者は避難訓練を実施したいと考えている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回の避難訓練は、消防署立会いの下で行っている。火災時の地震時の避難訓練(昼間・夜間の想定)ができた(今は感染予防の為自主に行っている)	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的消火設備、避難経路、非常食の食糧や物品の点検を行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	推進会議や避難訓練など日頃から地域住民や話し合いや訓練の場を持ち協力支援体制を確保している(今は感染予防の為自主に行っている)	○	○	◎	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	県民総ぐるみ地震防災訓練「シェイクアウトえひめ」に参加したり、他事業所と災害を想定した訓練を行っている(今は感染予防の為自主に行っている)	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	伊予市長寿介護課主催で行なわれるチームオレンジ定例会に参加し認知症ケアについて深く学び啓発活動等に取り組んでいる	/	/	/	地域住民から、今までに入居希望などの相談のほか、認知症などの相談に来所されたこともあり、管理者以外の職員でも、適切に対応できるようにしている。コロナ禍以前は、事業所の敷地内を開放して、一緒に地域住民と芋炊きをしたり、中学生の職場体験などの受け入れに協力することもできていた。また、事業所として、市行政が主体のボランティア活動グループのチームオレンジの会員となっており、地域行事を実施する際に、認知症カフェや介護相談を実施するなど、市や地域包括支援センターなどと連携を図りながら、地域活動に協力することもできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	普段から相談連絡に対応できるようスタッフ間認知症についてや介護保険の仕組みについて勉強し電話相談に対応できるようにしている	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	バザーや芋炊きなど地域の人たちが集まれる場所として事業所を解放している(今は感染予防の為行っていない)	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中高校生の職場体験や・大学生の実習等の受け入れに協力している(今は感染予防の為行っていない)	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市町や地域包括支援センター、他の事業所等、地域活動を協働しながら行っている。(今は感染予防の為参加できていない)	/	/	◎	